

下記は、ロンドン在住のワインジャーナリスト Patricia Langton 氏が、スペイン大使館経済商務部ロンドンオフィスと協力して 2016 年 1 月に書いた記事を抄訳したものです。(winesfromspain.com より)

※全 3 回。今回が最終回です。

◆Vol. 3

6. 地中海側、アンダルシア カタルーニャ、マヨルカ、及び南東地域
7. ヘレス

6. 地中海側、アンダルシア

D.O. ペネデス

ペネデス原産地呼称統制委員会は、昨年の出来に比べて、2015 年の品質は良いが総量で約 3.3%と若干の減産であったと講評している。アルコール度数は総ての品種に関して、0.5度高め。具体的には、チャレツロ 11.5 度、シャルドネ 12 度、マカベオ 10.7 度。赤ワイン用のテンプラニーリョ 12 度、メルロー 13.5 度、カベルネ・ソーヴィニヨン 13.9 度。全体としての品質は「優秀」と評価している。

DOCa プリオラート

プリオラートでは、春の多めの雨が、夏の厳しい暑さから守ってくれた。トーレスのヴィンテージ・レポートは「初夏にはとても暑い気温が続き、特に6月の気温は異常に高かった。7月、8月もとても暑く、乾燥した気候であったが、8月末と9月初めに降った雨が、収穫前に乾燥を和らげてくれた。9月 10 日以降、収穫が終わるまで目立った降雨はなかった。

報告書は続く。「2015 年の気象条件は、ぶどうの健康状態にとって有利であったため、ぶどうの成りは素晴らしい。フェノールの成熟感はとても良く、その状態は、特に涼しい地区で顕著であるが、生産性はわずかに低い。一方、暑すぎた6月、7月の気温によって、ベルムントやエル・モラルなどの日当たりの良すぎるぶどう畑では、フェノールの成熟に影響が出たことは否めないが、その程度はわずかである。」トーレスは 2015 年のワインの熟成に、大きな可能性をみています。

2015 年の収穫は、ここ数年来で最大となった。

2015 年: 630 万 Kg. 2014 年: 590 万 Kg

D.O. カタルーニャ

初期の見通しは昨年と比べて 30%の減産とも言われていた。4月初旬には遅霜がおり、それと別途、降雹もみられた。また、スペイン全土がそうであったように、初夏の異常な高温もあったので、そのような予測が立てられたのだ。幸い、7月末から8月にかけての収穫前のシーズンに、若干の降雨があった。収穫は、例年に比べて 10 日から 15 日早く始

められた。全般的にぶどうは「優良」な状態で、糖度レベルも十分であるが、ワインによっては酸度がわずかに不足している可能性もある。

2015年: 5090万 Kg 2014年比で 12.7%増。

D.O. ビニサレム-マヨルカ

ここでも雨量の少なさと、気温の高さが、2015年という年を性格づけている。8月の半ばに降った雨は、乾燥に悩まされていたなかで救いの雨となり、生育が促された。8月7日にはシャルドネから収穫が始められ、それに続いて、赤ワイン用の主要品種、モンテ・ネグロやモルが収穫された。ゴルゴリャッサの収穫が最後となり、10月6日に作業を終了した。「とても良い」ワインが期待されている。

2015年: 200万 Kg (およそ 2014年に比べて 15%の増加)

D.O. ウティエル・レケーナ

ここでは、冬季の間に適度な降雨があった。2014年は非常に乾燥した年だったので大きな助けとなった。その後、この地では夏だけでなく、春にも異常な高温に見舞われた。5月の気温は時に 40℃までも上昇することがあった。この地域の北東部及び中央部は、5月、7月、9月に雹をとまなう嵐に襲われ、ぶどうが若干失われることとなる。その他の北部、西部地区では、気候が比較的穏やかで、安定していたおかげで、「例外的」ともいえる程質の良いぶどうが収穫された。

9月の初めに降った雨は、ぶどうの房を大きくさせ、生産量上げることに役立った。ロンドン在住のデ・ビノス社のムルシアーノ氏は、生産者から聞いた話として次のように語る。「ボバル種はラクダみたいなんだ。水があるとぶどうの実はずっと大きくなるが、その分酸度が低くなり、濃縮度も薄まる。今回もまた、やせた土地にある高樹齢のぶどうの木(株仕立て)から収穫したもののほうが、垣根式の若いぶどうの木から採れたものより、ずっと品質がいい。」

2015年 1億 8900万 Kg 2014年 1億 5300Kg

D.O. フミーリャ

実が熟するのが早い種類のぶどうから、8月末には収穫が始まった。主に白ワイン用の種類で、赤用ではシラー、メルローがこれに当たる。その後、9月の半ば頃から、この地域の代表種、モナストレル種の収穫となった。病害の発生はごくまれで、栽培農家の介入は最小限に抑えられた。ウティエル・レケーナと同様に、ここでも雹の被害があり、平年の収穫量と比べて低かった原因はそこにある。ぶどうのバランスが良く、品質も良好。

2015年: 8000万 Kg 平年に比べて若干減産。

7. D.O. ヘレス

一年を通じて天候に恵まれたことで、ヘレスの収穫は、非常に満足のゆく結果となった。冬季には雨も降り、この地域独特のアルバリサという土壌が、十分な水分を吸い込み、夏の生育期に向けての蓄えを作ることができた。ここでも、夏の暑さは平年を超えており、収穫は前倒しにされ、8月3日には開始された。8月の下半期、気温が下がり、ぶどうをいつもよりもゆっくと熟させる結果となり、それが幸いして、酸度と糖度のバランスのよい実ができた。この時期特有の、レバンテ(地中海から吹いてくる熱い風)は、まれ、というよりも、ほぼ吹くことなく、これも収穫やぶどうの実の品質の条件にとって吉となった。出来高は予想を大きく上回って潤沢。実は健康で大粒。

2015年 7630万 Kg 2014年比で14%増。

==